

尼崎臨海地域のいまむかしマップ

～森構想エリアにおける環境のうつりかわり～

環境共生の森構想が策定される以前、昭和から平成にかけて尼崎臨海地域のようすは大きく変化しました。このマップには、森構想エリアの中でも変化が特徴的な場所について、昔の様子を写真で示しています。

① であい橋のモデルとなったガスタンク



北堀運河の西端から東側を撮影した写真。中央の大きな建造物はであい橋のモデルとなった関西熱化学のガスタンクで、現在は取り壊されています。(撮影年：1964年)

② 北堀運河と中堀運河周辺



この頃は工場の姿もまばら。空き地は水浸しのところもあり、写真右下には住宅のようなものも確認できます。(撮影年：1959年)

③ 第二阪神国道(現国道43号)



1963年に開通した第二阪神国道、現在の国道43号。辰巳橋では開通式にあわせて花火が打ち上げられたそうです。(撮影年：1964年) ※場所は推定。

⑤ 丸島橋



現在の橋がかかる以前、丸島橋は船の往來の度に開く跳ね橋でした。2枚目の写真は、それよりも以前の石橋を撤去する様子。(撮影年：不明(上)、1959年(下))

④ 尼崎閘門(尼ロック)



正式名称は尼崎閘門(こうもん)。2つの水門を開閉することで、海水が運河内に流れないように調節し、船が通航できるようにしています。

⑥ 尼崎の森中央緑地



製鉄所の跡地に整備された緑地。13万本の苗木を植え、多様な生物が暮らす生物多様性の森を100年かけて作っています。

⑩ 製鉄所のように



神戸製鋼所尼崎工場の内部の様子。神戸製鋼所は1987年に閉鎖され、現在はその跡地に中央緑地が整備されています。(撮影年：[上]1982年、[下]1962年)

⑦ フェニックス沖から臨海地域を望む



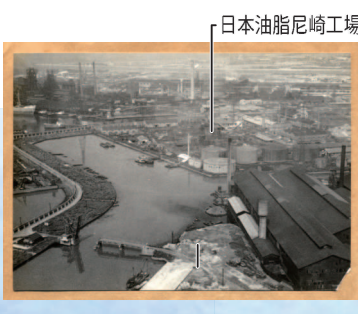
フェニックス事業用地の埋め立てが進められている様子。(撮影年：1990年)

⑧ 尼崎臨海地域南方から尼崎市街地を望む



製鉄所(現在は中央緑地)や発電所から、煤煙が上がる様子がうかがえます。(撮影年：1967年)

⑨ 南堀運河



南堀運河とその周辺の工業地帯。正対岸に見えるのは日本油脂尼崎工場。(撮影年：1959年)